

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年／通年	必修・選択	必修
授業のねらい							
この研究指導 I では、博士論文作成に向けて学生自身が「社会福祉思想」に関する問題意識を明確にし、それによって地域マネジメントに関する独自の方法的な視座を確立するという「テーマ・サーヴェイ」の指導を眼目とする。すなわち、一方ではロールズをはじめとする現代倫理学の主要な学説を概観し、他方では社会福祉研究の基礎理論に関わる内外の最新研究成果に幅広く当ることによって、福祉による地域マネジメントについて自身の作業仮説を構築し、それに基づく論文執筆計画を作成するよう指導するものである。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	社会福祉思想に関する問題意識を明確にし、それを地域マネジメントの問題に応用して論じることができる。			・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%		
思考・判断	地域マネジメントにおける論点を指摘し、この分野に新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。			・博士論文執筆	20%		
技能・表現	社会福祉の諸概念と視点を地域マネジメントに関する自らのテーマに応用し、論文を執筆することができる。			・博士論文執筆 ・授業内での発表	20% 10%		
知識・理解	研究テーマに関する主要な研究業績に当たって専門的な学術用語を正確に理解し、説明することができる。			・博士論文執筆 ・授業内での発表	20% 10%		
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
評価は博士論文の中間段階での執筆・提出 70%、授業態度・参加 10%、授業内での発表 20%の配分で行う。博士論文の中間段階での執筆・提出は文字通り、指導教員の指導を十分に受けて学位請求論文を書き進め、その一部を提出するものであって、博士の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。年度末にはその成果を授業内で発表・報告することを義務づける。							
授業の概要							
この授業は、博士論文の指導を内容とするものであり、ここでは最も基礎的な論文のテーマ選択、すなわち方法的視座を定めた上での「テーマ・サーヴェイ」に集中する。まず博士論文完成に至るまでの明確な論文執筆計画を立てさせ、作業仮説の設定や論文構成、先行研究の収集・精読・レビューの進め方などについて指導する。これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。 参考書：授業の中で指示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門的知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティ溢れるパースペクティブ（ものの見方・捉え方）を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させていくことを要求する。年度末に授業内で発表・報告することを義務づけ、研究科での他の中間発表会や公開試問会にも積極的に参加する必要がある。							

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年／通年	必修・選択	必修
授業のねらい							
テーマ：文献分析と現地調査 到達目標：博士論文の研究目的及び方法・内容を確定し、先行研究の文献渉猟・分析と現地調査を実施する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	博物館や地域文化資源に関心を持ち、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。			文献調査	20%		
				地域調査	20%		
思考・判断	博物館の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。			調査結果の分析・整理	10%		
技能・表現	調査の方法および調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身につけることができる。			研究成果の執筆	15%		
				研究発表	15%		
知識・理解	博物館学の専門知識を修得できる。			文献・資料の収集および分析	20%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
博士論文作成における文献調査及び博物館調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、研究発表を総合して評価する。 なお、研究発表は全国規模の学会・長崎国際大学国際観光学会等において口頭発表することを単位認定の条件とする。							
授業の概要							
前期は、研究課題に関連した先行研究の分析を行うとともに、本格的な現地調査の実施に向けて研究対象地域の選定作業を進める。後期は、収集した文献・資料や観察・聞き取り調査の結果を分析して、研究成果の一部を論文投稿、あるいは全国規模の学会等で口頭発表するための指導を行う。 これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。 参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学術論文を多く読み高度な知識と理論を身につけるとともに、指導教員の指示にしたがって現地調査に積極的に取り組むことが望まれる。							

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	城前 奈美		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年／通年	必修・選択	必修
授業のねらい							
特別研究指導（Ⅰ～Ⅲ）を通して、地域経済社会と観光現象との関係に関するもので、博士の学位に値する質の高い博士論文を作成する。特別研究指導Ⅰでは、博士論文の研究目的および研究手法を確定するために、先行研究の文献解題や必要に応じて予備調査を実施する。そして、その成果を、関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	地域経済社会と観光現象との関係に関心を持ち、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。			授業態度・参加	20%		
思考・判断	地域経済社会に与える観光現象の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。			(文献・予備調査) 研究の成果	20%		
技能・表現	調査や研究の成果を、分析的に、かつ、論理的に執筆・発表できる。			研究成果の執筆 研究成果の発表	15% 15%		
知識・理解	地域経済社会と観光現象との関係に関する知識を修得できる。			文献調査	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
評価は、授業態度・参加 20%、文献研究や調査研究の成果 20%、研究成果の発表 15%、研究成果の執筆 15%、文献調査 30%の配分で行う。授業態度・参加については、先行研究や文献の収集を、的確に計画的に実施しているかを評価基準とする。文献研究や調査研究の成果については、先行研究や文献の調査、および予備調査を経て、特性や問題点を的確に適正に見出しているかを評価基準とする。研究成果の発表や執筆については、関連学会での口頭発表や投稿において、分析的に、かつ、論理的に表現できているかを評価基準とする。文献調査については、50 本以上の文献を理解したかを評価基準とする。							
授業の概要							
<p>前期は、関連する先行研究の収集と解題を行いながら、研究手法となる方法論についても学んでいく。先行研究については、少なくとも国内外の研究を合わせて 50 本以上を目標とする。</p> <p>後期には、必要に応じて予備調査を実施し、これらの成果を踏まえて、博士論文の研究目的や研究方法を定めていく。これら一連の作業成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に掲載する。</p> <p>これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育をおこなうものとする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書： 特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。</p> <p>参考書： 特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
積極的に、かつ、幅広く先行研究や文献を解題し、研究の視野を広げた上で、研究の絞り込みを図ることを期待する。回り道に思えるかもしれないが、研究の視野を広げることは、学術的意義がある研究テーマや研究手法を見出すことにつながり、また、自身の研究の独自性を見出すことにつながる。近道を選択せずに、大きく回り道をする勇気を持つよう。							

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年/通年	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							
観光が地域マネジメントにもたらす課題を特定し、その課題に誰がどのように取り組むべきかを考察する。この考察にあたり、国際関係と観光の関わりと、政治と観光の関わりに注目する。また、課題への取り組みに関して地域社会の人たちが従来からのやり方で変えるべきことと変えてはいけないことは何か、も検討する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	自分の選んだフィールドにおいて、地域マネジメントに関わるどのような課題が生じているかを把握し、論じることができる。			授業態度・参加 論文執筆		10% 10%	
思考・判断	地域マネジメントに関わる課題にどう取り組むべきかを、論じることができる。			論文執筆		20%	
技能・表現	論文を、読み手にとって分かりやすく執筆できる。			論文執筆 中間発表		10% 20%	
知識・理解	先行研究に基づいて、研究テーマに関する学術用語を正確に使用することができる。			論文執筆 中間発表		20% 10%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
博士論文執筆 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会等での発表 30%とする。							
授 業 の 概 要							
(1) 1 年次前期では先行研究の調査、資料収集とフィールド予備調査の準備を行う。 (2) 後期では資料収集とフィールド予備調査を行い、方法論を確立する。 (3) 研究レポート I 提出、長崎国際大学国際観光学会ならびに他学会出席。 これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。 参考書：授業の中で指示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
(1) 論理的で明快な説明を心がけること（過度に能弁であることとは別である）。 (2) 大学院の同僚や研究協力者に敬意と誠意をもって接し、教わろうとする姿勢。 (3) 健康ならびに周囲との人間関係を良好に保つ。根気が続く源となる。 (4) 研究の進めるうえで困ったことが生じたときは、すぐに指導教員に相談する。							

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年／通年	必修・選択	必修
授業のねらい							
<p>研究指導 I では、学生が自身の問題意識を明確化した上で研究テーマを確定し、博士論文の執筆計画を作成し、研究の基盤となる理論的枠組みを構築するための指導を主眼とする。具体的には、社会福祉学及びソーシャルワークに関連する先行研究・先行実践について文献レビューを行うとともに、学生自身の生活経験や実践経験を振り返り、先行研究や社会福祉政策における研究テーマの位置づけを明らかにするよう指導する。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	問題意識を明確化し、社会福祉学及びソーシャルワークの先行研究・実践・政策における位置づけを論じることができる。			授業態度・参加 博士論文執筆	10% 20%		
思考・判断	地域マネジメントに新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。			博士論文執筆	10%		
技能・表現	文献レビューや理論研究の方法を身に付け、それらの研究成果を踏まえて口頭発表をし、論文を執筆することができる。			博士論文執筆 授業内での口頭発表	10% 20%		
知識・理解	研究テーマに関する文献レビューを行い、理論的概念や学術用語を正確に理解し、説明することができる。			博士論文執筆 授業内での口頭発表	20% 10%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、博士論文の途中段階での執筆内容 60%、授業内での口頭発表 30%、授業態度・参加 10%の割合で行う。博士論文の執筆については、研究計画に即して着実に進行し、指導教員による研究指導を十分に受け、その内容を反映させた内容となっているかという点が評価の対象となる。また、年度末には研究成果を授業内で発表することを義務づける。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、博士論文の執筆指導のうち、研究の初期段階に位置する研究テーマの選定、研究目的及び方法の確定のための指導を行う。博士論文執筆の具体的かつ実現可能な計画を立て、先行研究をレビューし、研究の理論的枠組みを構築することができるよう、研究指導を行う。</p> <p>なお、これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入すること。</p> <p>参考書：岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英編（2006）『社会福祉研究法—現実世界に迫る 14 レッスン—』有斐閣、ダン・レメニイ著・小樽商科大学ビジネス創造センター翻訳（2002）『社会科学系大学院生のための研究の進め方—修士・博士論文を書くまえに—』同文館出版、その他、授業中に適宜紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>受講生に対しては、自身の研究テーマに関する先行研究及び実践・政策について幅広くレビューし、高度な専門的知識及び研究方法を修得するとともに、その分野における新たな知見をもたらすような独自性のある研究に取り組むことを期待する。また、地域の生活者や社会福祉実践現場の抱えるニーズや課題に迫ることができるよう、実践との接点を持ち、理論を実践に応用したり実践から理論を導き出したりするなど、意識的に理論と実践を関連づけながら研究を遂行することを求める。さらに、関連学会への参加や研究科における中間発表会・口頭試問会へも参加する必要がある。</p>							

授業科目	特別研究指導 I Special Study on Degree Thesis I			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1 年／通年	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							
テ ー マ：文献調査と先行研究の分析 到達目標：博士論文の研究の目的および方法・内容を確定し、先行研究の分析を実施する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	地域の古代史と古代文化資源に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。			文献調査	40%		
思考・判断	地域の古代史と古代文化資源の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。			調査結果の分析・整理	10%		
技能・表現	調査の方法および調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身につけることができる。			研究成果の執筆 研究発表	15% 15%		
知識・理解	地域の古代史と古代文化資源の専門知識を修得できる。			文献・資料の収集および分析	20%		
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
博士論文作成における文献調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、研究発表を総合して評価する。 なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することを単位認定の条件とする。							
授 業 の 概 要							
前期は、研究課題に関連した先行研究の収集と分析を行う。後期は、収集した先行研究である文献資料から重要な情報のノートテイクの手法を修得し、取得した情報を分析して論考としてまとめる。また、研究成果の一部を論文投稿、あるいは全国規模の学会等で口頭発表するための指導を行う。 これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。 参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文、その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティー溢れる学術的物の見方・捉え方を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受け止め、それを論文内容に反映させていくことを要求する。年度末には専攻内の中間発表で発表報告することは義務であるが、研究科での他の中間発表会や公開試問会にも積極的に参加する必要がある。							